

M3S-STCP30 日本語版 ご使用上のお願い

M16C/62グループ用ミドルウェア TCP/IPプロトコルスタック M3S-STCP30の使用上の注意事項を連絡します。

- ループバックに関する注意事項

1. 該当製品

M3S-STCP30 V.1.00 Release 1 ~ V.1.02 Release 1

2. 内容

M3S-STCP30では、ループバック（自局にデータ送信する機能）をサポートしていません。APIの宛て先IPアドレスにループバックアドレス(127.xxx.xxx.xxx、または自局のIPアドレス)を指定した場合、以下の動作をします。

- 外部にパケットを送信しない。
- プロトコル内部でループバックしない。
- ループバックアドレスに"127.0.0.1"を指定した場合のみ、APIの戻り値としてE_PAR（パラメータエラー）を返す。
それ以外のループバックアドレスを指定した場合、戻り値が不定になる。

2.1 発生例

- (1) tcp_con_cep()関数 または udp_snd_dat()関数の宛て先IPアドレスに"127.0.0.1"を指定した場合、E_PAR（パラメータエラー）を返す。
- (2) tcp_con_cep()関数の宛て先IPアドレスに自局のIPアドレスを指定した場合、再転送タイムアウトが発生し、E_CLS（接続の失敗）を返す。
- (3) udp_snd_dat()関数の宛て先IPアドレスに自局のIPアドレスを指定した場合、戻り値が不定になる。

3. 回避策

APIの宛て先IPアドレスにループバックアドレスを設定しないで下さい。

4. 恒久対策

APIの宛て先IPアドレスに"127.0.0.1"以外のループバックアドレスを指定した場合も、E_PARを返すよう次期バージョンアップの際に改修する予定です。

また、次期バージョンアップ製品に添付するユーザーズマニュアルにループバックに関する注意事項を追記します。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.